

鳥取県てんかん診療拠点機関におけるてんかん患者の診療実態

研究分担者：吉岡伸一 鳥取大学医学部保健学科地域・精神看護学講座

研究要旨 鳥取県てんかん診療拠点機関におけるてんかん患者の診療実態

鳥取県てんかん診療拠点機関に 2019 年 4 月より 12 月の期間中受診した保険診療病名をもとにてんかんの病名がつけられた患者について、初診患者及び継続診療患者数を調査した。新規患者は 258 名、継続診療患者は 1,618 名で、診療科別では脳神経小児科、脳神経内科、精神科、脳神経外科の 4 診療科がそれぞれ全体の 77.5%、86.8%を占めていた。また、てんかん診療支援コーディネーターに寄せられた相談件数は 22 件で、患者本人からの相談が多かったが、診療拠点機関内からの相談はみられなかった。

てんかんセンターの機能を有さない診療拠点機関での活動を進めるため、今後、てんかん患者の診療を担う診療科同士の連携体制の確立が重要と考える。

A. 研究目的

鳥取県は、厚生労働省てんかん地域診療連携整備事業（以下整備事業）として全国 8 施設の一つに認定され、鳥取大学医学部附属病院（以下鳥大附属病院）が診療拠点機関として活動を始めた。鳥大附属病院は、整備事業として登録されているてんかん診療拠点機関としててんかんセンターの機能を有さない唯一の機関である。そのため、県内の他の医療機関と連携する形で整備事業の機能を有している。鳥大附属病院でてんかん診療を担っている診療科は、主に脳神経小児科、脳神経内科、精神科、脳神経外科である。しかし、てんかんセンターとしての機能がないため、診療科間の連携には限界がある。整備事業の委員は、鳥大附属病院の脳神経小児科と精神科の医師であり、各診療科で診療しているてんかん患者数を総括して把握することは困難である。

また、てんかん整備事業の役割には、てんかん診療支援コーディネーターによる相談事業、

てんかんに関する普及啓発活動、診療拠点機関を中心にてんかん診療のネットワーク構築が挙げられている。

今回、診療拠点機関におけるてんかん患者の診療実態から、てんかんセンターを有さない鳥取県の診療拠点機関の今後の役割を明らかにすることを目的として、鳥大附属病院に受診する患者の保険診療病名をもとに、「てんかん」の保険診療病名が記載された患者数を調査した。併せて診療拠点機関のてんかん診療支援コーディネーターへの相談についても調査した。

B. 研究方法

鳥取大学医学部附属病院医事課医療情報管理係に依頼し、2019 年 4 月 1 日より 12 月までの期間、当院に受診した患者のうち、「てんかん」の保険診療病名が記載されている患者の検索を依頼した。「てんかん」病名が付いた新規及び継続診療患者について、診療科別に実数を集計した。

また、2019年4月より12月までの期間に、鳥取県てんかん診療拠点機関のてんかん診療支援コーディネーターに寄せられた相談について、相談内容及び相談対象者について集計した。

(倫理面への配慮)

てんかん患者及び相談については、個人が特定されないように配慮し、実数のみを対象として集計した。

C.研究結果

1) 新規患者

2019年4月1日より12月17日の期間中、新規にてんかん病名が付けられた患者数の診療科別実数を表1に示す。258名の新規患者が受診していた。診療科別では、脳神経内科、脳神経小児科、脳神経外科、精神科の順に多く、4診療科が全体の77.5%を占め、次いで救急科が多かった。

表1. てんかん病名がついた診療科別新規患者数

診療科	人数	診療科	人数
リハビリテーション科	4	女性診療科	1
眼科	2	新生児医療センター	1
救急科	15	整形外科	3
胸部外科	2	精神科	18
呼吸器・膠原病内科	7	総合診療外来	2
耳鼻咽喉科頭頸部外科	2	内分泌代謝内科	2
歯科口腔外科	2	乳腺・内分泌外科	1
腫瘍内科	2	脳神経外科	41
循環器内科	2	脳神経小児科	61
小児科	3	脳神経内科	80
消化器外科	4	泌尿器科	1
消化器内科	2	総計	258

2) 継続診療患者

2019年4月1日より12月17日現在、継続しててんかん病名がついた患者数の診療科別実数を表2に示す。全体で1,618名の継続診療患者が受診していた。診療科別では、脳神経小児科、脳神経内科、精神科、脳神経外科の順に患者数が多く、4診療科が全体の86.8%を占めていた。

表2. てんかん病名がついた診療科別継続診療患者数

診療科	人数	診療科	人数
感染症内科	1	女性診療科	4
眼科	1	心臓血管外科	6
救急科	18	腎臓内科	3
胸部外科	3	整形外科	11
形成外科	2	精神科	324
呼吸器・膠原病内科	33	総合診療外来	2
血液内科	8	内分泌代謝内科	5
耳鼻咽喉科頭頸部外科	7	乳腺・内分泌外科	5
歯科口腔外科	4	脳神経外科	241
腫瘍内科	5	脳神経小児科	447
循環器内科	18	脳神経内科	393
小児科	25	泌尿器科	9
小児外科	1	皮膚科	2
消化器外科	9	麻酔・ペインクリニック外科	25
消化器内科	6	総計	1618

3) てんかん相談

てんかん診療支援コーディネーターへの相談件数は、22件であった。相談対象者を表3に、相談内容を表4に示す。

表3. 相談対象者（複数選択あり）

対象者	件数
患者本人	7
家族	5
地方の方	2
企業	1
医療従事者	1
行政・福祉機関	6

表4. 相談内容（複数選択あり）

相談内容	件数
知識	6
てんかん事業	5
かかりつけ医	2
医療機関紹介	2
就労支援	2
てんかん発作以外の症状	2
セカンドオピニオン	1
転科	1
公的支援	1
医療関係者とのトラブル	1

相談対象者としては、患者本人からの相談が最も多く、次いで行政・福祉機関からの相談、家族からの相談であった。相談内容としては、てんかんの知識が最も多く、次いでてんかん事業が多かった。少数であるが、かかりつけ医、医療機関紹介、就労支援や医療機関とのトラブル相談があった。

D.考察

鳥取県のてんかん診療支援機関におけるて

んかん患者の診療実態について、「てんかん」と保険診療病名が記載された患者をもとに調査したところ、新規患者は 258 名、継続診療患者は 1,618 名であることが明らかになった。なお、保険診療病名としての「てんかん」は、てんかん以外の疾病を有する患者にも付けられることがある。そのため、てんかん患者以外の疾病が含まれている可能性があり、てんかん患者かどうかの検討が必要と考える。山陰地区医師会会員を対象に行った調査で、鳥大附属病院で主治医としててんかん患者を診療している医師は脳神経小児科、精神科、脳神経外科、脳神経内科、内科に所属する会員であった。今回の調査でも、脳神経小児科、脳神経内科、精神科、脳神経外科の 4 診療科の患者数が継続診療患者全体の 86.8%であった。診療拠点機関において少なくとも 1,000 名以上の患者が診療を受けているのではないかと推察される。

山陰地区医師会会員を対象として調査から、鳥取県内のてんかん患者の推定患者数は 4,261 名で、有病率が千人あたり 7.25 と推察されている。整備事業を拡充・発展させるために、診療拠点機関をはじめ、鳥取県内でのてんかん患者数を正確に求める必要がある。

今回、整備事業の 3 本柱の一つである、てんかん診療支援コーディネーターへの相談についても調査した。相談件数は 22 件と少なかったが、相談対象者は患者本人のほか、様々な方からの相談があったが、鳥大附属病院から相談はなかった。また、相談内容については、てんかんについての知識やてんかん事業のほか、かかりつけ医、医療機関の紹介、就労支援をはじめ、セカンドオピニオン、転科、医療関係者とのトラブルなど、様々であった。鳥大附

属病院内でてんかん患者が様々な診療科に受診していることから、今後、診療拠点機関内の他の診療科との連携も必要になると考える。

E. 結論

てんかんセンターの機能を有さない鳥大附属病院のてんかん診療拠点機関における継続診療中のてんかん患者は 1,618 名で、脳神経小児科、脳神経内科、精神科、脳神経外科の 4 診療科が全体の 86.8%を占め、また、新規患者も 4 診療科が全体の 77.5%を占めていた。てんかん診療支援コーディネーターへの相談は患者本人からの相談が多く、診療拠点機関内からの相談はなかった。今後、てんかん診療拠点機関としての機能を発展させるためには、てんかん診療を担う 4 診療科同士の連携が望まれる。

(参考資料)

1) 吉岡伸一、高間さとみ、雑賀倫子. 山陰地区医師会会員を対象としててんかん診療の実態に関する研究. てんかん治療研究振興財団研究年報 2012 ; 23 : 97-104.

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし